

「孫の日」と「お盆玉」

篠崎 辰夫

孫の日ってご存知でしょうか？ もしかしたら、知っている人の方が少ないかもしれません。孫の日は、一体いつから始まって、どういうものなのか。

孫の日は10月の第3日曜日。敬老の日（9月の第3日曜日）から1ヶ月後にあたる。日本百貨店協会が提唱して、1999年（平成11年）に日本記念日協会が認定した。

目的は、「孫と、おじいちゃん・おばあちゃんがコミュニケーションを深める日に」というものだが、孫へのプレゼントで消費を喚起し、売上げの拡大を図ろうとする日本百貨店協会の商魂たくましい記念日でもある。敬老の日から一か月後というのは、バレンタインデーに対するホワイトデーのようなものとしてプレゼント需要を狙っているのだが、はたして狙い通りにいくかどうか。

記念日となってから20年ほど経っているが、そのわりには記念日としての認知度はまだ低いようだ。それに、孫たちを預かり、日常的に顔をつきあわせている人にとっては、毎日が孫の日。コミュニケーションは十分すぎるほどとれているので、「これ以上勘弁してよ」というのが本音なのかも知れない。

一方、「おぼんだま」というのをご存知でしょうか。お年玉ならぬ「お盆玉」。世間では「余計な文化を増やすな！」「これ以上普及しちゃうと困る～！」と親世代を中心にこんな声が上がっているが、右肩上がりで広がりをみせているらしい。

仕掛け人は、お年玉用のぼち袋、祝儀用品などを製造・販売する会社。同社が「お盆玉」の命名者で、平仮名の「おぼんだま」とともに商標登録も済ませている。少子化に伴い、お年玉袋や祝儀袋の需要が減る中、日本の伝統文化に根ざした新たな商品がつかれないかと考えたそう。同社の商品企画担当者によると、「孫や子が帰省した際に小遣いを渡す文化は、年始だけではない。お盆時期の帰省は古くから一般的で、そこでおじいちゃんやおばあちゃんがお小遣いを渡す例は決して珍しくない。お盆に渡すお小遣い専用の袋があってもいいのではと考えました」

当初はなかなか売れなかったが、全国各地の郵便局でお盆玉袋の販売がスタートした2014年に状況は一変。お盆玉袋の売り上げは右肩上がりで伸び、比例して認知度も向上しているという。

「孫の日」と「お盆玉」。年金の目減り、消費増税で苦労しているおじいちゃん・おばあちゃんにとっては、頭の痛い文化になりそうです。

(2019/09/25)